



2012年8月30日

お客様向け資料

BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジルの政策金利の引き下げについて

ブラジル中央銀行は、現地 2012 年 8 月 28 日・29 日に開催された COPOM（定例金融政策委員会）において、Selic（政策金利）を 0.50%引き下げ、過去最低を更新する年率 7.50%とすることを、全会一致で決定しました。

ブラジル中央銀行は、世界経済の減速によるブラジル経済への影響を懸念して、2011 年 8 月から 9 回連続して金利引き下げを実施、合計の引き下げ幅は 5.00%となっています。

ブラジルでは、6 月鉱工業生産が前月比+0.20%と、4 ヶ月ぶりに前月比でプラスとなりましたが、前年同月比は-5.51%とマイナスとなっているほか、7 月の製造業購買担当者指数（PMI）は 4 ヶ月連続して景況感の分かれ目となる 50 を下回り、8 月の消費者信頼感指数も 4 ヶ月連続で前月を下回っています。

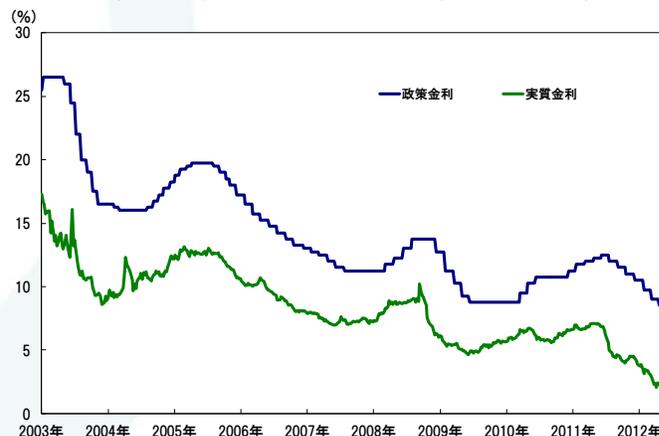
一方で、6 月小売売上高は前月比+1.50%、前年同期比+9.54%となり、前月比は予想外のプラスとなったことで、これまでブラジル政府・中央銀行が行ってきた、金利引き下げ、減税や輸入関税の引き上げ、レアル安政策、信用拡大政策といった景気対策が奏功しつつあるとの観測が高まっており、今回の利下げは、景気の本格的な回復を実現するために行われたと考えられます。

ただ、7 月の拡大消費者物価指数（IPCA）は、6 月の前月比+0.15%を上回る同+0.43%に加速、前年同月比も +5.20%に上昇し、ブラジル中央銀行の目標インフレ率の中間値（+4.5%）を上回っています。ブラジル政府・中央銀行は国内景気の回復を重要視しており、必要であれば更なる追加利下げを行う可能性があると考えられますが、今後は、足元でインフレ率が上昇していることに注意しながら、対応を図っていくものと考えられます。

本利下げは 29 日のブラジル株式市場の引け後に発表されました。この利下げを受けて為替市場では、対米ドルは 1 米ドル=2.05 レアル台、対円は 1 レアル=38.4 円台と、ややレアル安で推移しています。

ブラジルでは、上述のように、景気対策効果の表れとも考えられる兆候がみられますが、欧州債務問題や世界的な景気減速に対する不安感が払拭されないなど、厳しい環境が継続するとみられることから、当面は慎重な見方を採ってまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移
(2003年2月1日～2012年8月29日)



2012年8月29日
8.00%→7.50%へ
0.50%の引き下げ

*政策金利：Selicを使用。
*実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出
(データ出所：ブラジル中央銀行)

本資料は、BNPパリバアセットマネジメントブラジルが作成した資料をもとに、BNPパリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解を提供することを目的として、2012年8月30日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。